

# 複合的能力 (MI) 理論に基づいた早期英語教育の可能性

## —教材のタスク分析を通して—

長谷川 淳一

キーワード：複合的能力 (MI) 理論、早期英語教育、教材、タスク、プロジェクト

### はじめに

個性を生かす教育の重要性が叫ばれて久しいが、今日の教育現場ではどのような個性化教育が実践されているのであろうか。筆者は、本学健康福祉学群で保育専修科目の「保育の英語 I・II」及び「児童英語教育入門」を担当している。いずれの授業においても、受講学生はグループごとに「プロジェクト」と称する平易な英語を使用した活動を考案する課題が与えられ、クラスで発表することが求められる。「プロジェクト」の活動内容は、受講生同士の自由な発想に任されており、例えば、オリジナルの絵本を作成し、読み聞かせを実演したり、創作寸劇を披露したり、ダンス・パフォーマンスをしたりと多彩である。

「プロジェクト」に取り組んでいる学生の状況を観察していると、グループ内で英語を積極的に使う者もいれば、絵を描くことが得意な者もいる。また、ダンスなどの運動能力が秀でている者や楽器の演奏を好む者も見受けられる。このように、学生はその多様な能力と個性を存分に発揮しながら「プロジェクト」に取り組んでいるが、そういった能力の多様性を考慮した活動は、早期英語教育においては可能だろうか。

「プロジェクト」のような表現活動をペアーもしくはグループでおこなう際には、Howard Gardner (1983; 1993) が提唱した複合的能力 (Multiple Intelligences 以下、MI とする) 理論が参考になる。知能を多面的にとらえる複合的能力 (MI) 理論では、人間の能力は、IQ という一つの尺度だけで判断されるものではなく、少なくとも 8 つの能力が存在し、育成の方法によって、それぞれの能力が複合的に働き、相補的に作用する中で伸びることができるとしている。しかし、複合的能力 (MI) 理論を応用した早期英語教育の研究はほとんどない。本稿では、教材のタスク分析を通して、複合的能力 (MI) 理論に基づいた早期英語教育が可能かどうかについて検討する。

## I 複合的能力 (MI) 理論の特徴

複合的能力理論は、Harvard大学認知心理学・教育学教授のHoward Gardner (1983 ; 1993) が提唱した理論である。Howard Gardnerは、複合的能力理論において、子どもには、本来「言語能力」「論理的・数学的能力」「空間能力」「身体・運動能力」「音楽的能力」「人間関係構築能力」「自己理解・自己管理能力」「自然との共生能力」が備わっているが、子ども一人ひとりによってその能力は異なるため、教材を開発したり、授業を設計する際には、子どもの得意な能力を生かせるように多様な活動を取り入れるなどの創意工夫の必要性を説いている。この理論は、北米、南米、ヨーロッパ及びアジアの国々に広く支持され、実践者も増加している。子どもの「個性重視」や「生きる力」の養成を掲げる日本の教育にとっても、子どものいろいろな能力を認める複合的能力理論は参考になる。以下に、子どもの8つのタイプの能力と、それらの能力を持っている人の具体的特徴を示す。

### ①「言語能力」(言語を用いてコミュニケーションを図ろうとしたり、言語そのものを学ぼうとしたりする能力)

#### 具体的特徴

- ・ 音声やリズム及びさまざまな話し言葉を聞いたり、反応したりする。
- ・ 音声や表現を模倣する。
- ・ 聞いたり、読んだり、書いたり、討論したりすることによって、学習する。
- ・ 話された内容を効率よく聞いたり、理解したり、記憶したりする。
- ・ 書かれた内容を効率よく読んだり、理解したり、要約したり、記憶したりする。
- ・ さまざまな目的で、さまざまな聞き手に効率よく話したり、適切な時に相手にわかりやすく話す方法を知っている。
- ・ 読み聞かせや発表に興味を示す。
- ・ 自分で言葉を生み出す。

### ②「論理的・数学的能力」(数を把握したり、操作したり、因果関係を理解したりする能力)

#### 具体的特徴

- ・ 量や時間の概念に親しむ。
- ・ 具体的な事物を表すために抽象的なシンボルを使用する。
- ・ 論理的問題を解決するスキルを示す。
- ・ さまざまな数学的スキルを使用する。
- ・ 論理的思考を必要とする分野に興味を示す。

③「空間能力」(配置のイメージを形成したり、絵や図を通して空間を認識したりする能力)

具体的特徴

- ・観察学習によって、形や色などを認識する。
- ・絵を描いたりすることによって、事物を視覚的に表す。
- ・事物をさまざまな方向から観察する。

④「身体・運動能力」(物を作ったり、球技やダンスのような活動をしたりするために体を動かす能力)

具体的特徴

- ・ロールプレイやゲームをすることによって、具体的な学習経験を積む。
- ・小さな動きや大きな動きをすることによって、敏捷性を養う。
- ・いろいろな活動に適應して、うまく体を動かすスキルを示す。
- ・体を使うことに興味を示し、自分で体の使い方を工夫する。

⑤「音楽的能力」(歌を作ったり、メロディーやリズムなどを楽しんだりする能力)

具体的特徴

- ・さまざまな音を興味を持って聞く。
- ・学習環境において、音楽を楽しむ。
- ・歌を歌ったり、楽器を演奏したりする。
- ・音楽に関する情報を収集する。
- ・音楽に関する分野に興味を示す。

⑥「人間関係構築能力」(他人を理解したり、他人と協力したりする能力)

具体的特徴

- ・他人と社会的な関係を構築するさまざまなスキルを身につける。
- ・他人の感情や考え及び行動などを理解する。
- ・ゲームや劇やロールプレイなどをペア及びグループで行う。
- ・言葉に依る方法と言葉に依らない方法の両面から上手にコミュニケーションをする。
- ・他人との関係において、広い視野を持つ。
- ・人と関わる事柄に興味を示す。

⑦「自己理解・自己管理能力」(自分を理解したり、他人との類似点や相違点を知ったり、感情をコントロールしたりする能力)

具体的特徴

- ・目標を目指して努力する。
- ・道徳的価値観を持って行動する。

- ・継続的に学習する。
- ・他人をほめたり、励ましたりする。

⑧「自然との共生能力」(動植物の多様性や自然界との関係を認識する能力)

具体的特徴

- ・環境の変化に気づく。
- ・自然界の特徴を学習する。
- ・自然の事物の絵を描く。

## Ⅱ 先行研究の概観

複合的能力理論を言語教育に応用した記述はBerman (1998)、Brewster & Ellis (2002)、Paul (2003)、Pinter (2006) において見られるが、日本では、複合的能力理論に基づいた英語教育の実践例はあまりないのが現状である。従って、複合的能力理論に基づいた英語教育の有効性についての研究もほとんどなされていない。そういった状況の中で、林 (2011) は、複合的能力理論を英語教育に応用する重要性について次の5つの点を指摘している。

- ① 潜在的な個性を生かした知能を発揮し、認知的多様性に応じて課題の問題解決策を生み出すことができる。
- ② 人には得意な知能と不得意な知能があることを認め、人格の形成を重んじる。
- ③ 協同学習及び学習者中心の指導でトピックや内容理解に焦点をおくことができる。
- ④ 学習者の将来の職業を見極め、明確な目的をもって学ぶことができる。
- ⑤ 学習者は自身の学習スタイルや学習方略を見出す知恵を絞り、英語力の目標に辿りつくことが可能である。

早期英語教育に関しては、③の事項があてはまると考えられる。それに関連して、田辺 (2014) は、小学校のインターンシップの一環として複合的能力理論を応用した授業案の作成とその授業案に基づいた特別支援学級での授業実践の結果、複合的能力理論は子どもの外国語活動への学習意欲向上に結びつくものであったと結論づけている。同様に、外山 (2010) も特別支援学級の外国語活動において、授業案に工夫を凝らしたり、多様な子どもに対応するように指導法を改善するなど、複合的能力理論を考慮した授業を展開することによって、子どもの外国語活動への興味・関心を高めることができることを実感したと述べている。さらに、そのように作成した授業案は通常学級においても十分通用するものであると付記している。一方、長谷川 (2011) は、教材に着目し、全公立小学校の第5学年と第6学年の外国語活動で共通に使用されていた『英語ノート1』『英語ノート2』の全てのタスク(活動内容)を複合的能力理論の観点から分析した結果、一律ではないもの

の8つのタイプの能力の中で「自然との共生能力」以外の7つの能力を伸ばす内容となっており、様々な学習スタイルを考慮していると指摘している。その点では、教材面からも複合的能力理論に基づいた授業実践の可能性を示唆していると言えよう。林（2006）は、日本人大学生を対象にライティング活動に焦点をあて、ライティング指導の問題点を取り上げ、複合的能力理論の視点からその問題解決策を考察した。具体的には、複合的能力理論をライティング活動に応用する方法を提示した上で、お互いの得意な能力を生かしながら相互作用することによって理解を高める協同学習の必要性に言及している。

このような先行研究を踏まえ、小学校の外国語活動における共通教材を調査資料とし、それらのタスク（活動内容）が複合的能力理論の8つのタイプのいずれかの能力を取り扱っているのかを調べることにした。

### Ⅲ 調査・分析

今回、小学校の外国語活動で活用されている『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』を調査対象とし、子どものそれぞれ異なった能力を認める複合的能力理論の8つのタイプの能力をタスクの中で取り扱っているのか否か、取り扱っている場合でもどのようなタスクで取り扱っているのかを調べた。共通教材である『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』を調査対象として選んだのは、各小学校の裁量により低学年の児童にも外国語活動が導入されている現状を踏まえ、発達段階に応じて活用できるように、子どもに負担のない活動を盛り込むことを教材の基本コンセプトとしているため、複合的能力理論に基づいた早期英語教育の可能性を探る資料として適切だと考えたからである。

『Hi, friends! 1』では、タスクとして*Let's Listen*、*Let's Chant*、*Let's Play*、*Activity*、*Let's Sing*と5種類が設定されており、『Hi, friends! 2』では、*Let's Listen*、*Let's Chant*、*Let's Play*、*Activity*と4種類のタスクが設定されている。*Let's Listen*のねらいは、音声教材を聞いて、日本語と外国語（英語）の共通点や相違点を通して言葉の面白さや豊かさに気づくとともに、設定された語彙や表現を繰り返し聞いて、外国語に慣れ親しむことである。*Let's Chant/Sing*、*Let's Play*のねらいは、日本語と外国語（英語）の共通点や相違点を通して言葉の面白さや豊かさに気づくとともに、設定された語彙や表現を繰り返し聞いたり、言ったり（歌ったり）して、それらに慣れ親しむことである。*Activity*のねらいは、これまでに慣れ親しんだ語彙や表現等から自分で選んだものを使って、友だちや指導者とコミュニケーションを図り、外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験することである。

調査方法は、『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』に掲載されている全てのタスクを巻頭・巻末も含めて単元別に調べ、それぞれのタスクについて、複合的能力理論の8つのタイプの能力に明らかに当てはまらないと思われる能力を除く形で行った。従って、1つのタスクが1つのタイプの能力に止まらず、複数の能力にまたがると考えられる場合は、複数の

能力が含まれているものとして数えた。例えば、*Let's Chant/Sing*といったタスクは、体を動かしながら、語彙や表現を繰り返し聞いたり、言ったり（歌ったり）することから、上記の基準に従って、「言語能力」「音楽的能力」「身体・運動能力」など複数のタイプの能力に関連した活動であるとした。ただし、1つのタスクにおける複合的能力理論の分類はあくまで筆者の判断であるため、調査者によって調査結果が左右されるかもしれない。その意味では、調査結果に限界があると言えるが、『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』に含まれているタスクと複合的能力理論の8つの能力との全体的な関係性は推察されるのではないかと考えた。

### 1 『Hi, friends! 1』のタスクと8つの能力との関係

表1は、『Hi, friends! 1』のそれぞれのタスクが8つの能力のいずれかに関連していると判断した際の件数とその内訳を示したものである。一見して、件数の違いはあるものの、5つのタスクがほぼ8つの能力のどれかに関係した内容となっていることがわかる。基本的に、全てのタスクは言語能力につながるものと思われるが、言語能力と共に、他の能力を伸ばすことを意図した統合型タスクも多い印象を受ける。5つのタスクの中では言

表1. 『Hi, friends! 1』のタスクに関連した8つの能力の件数とその内訳

能力の種類 Task の種類	言語能力	論理的・ 数学的能 力	空間 能力	身体・ 運動能 力	音楽的 能力	人間関 係構築 能力	自己理 解・自 己管理 能力	自然と の共生 能力
巻頭・巻 末	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Let's Listen</i>	16	2	10	0	0	0	1	3
<i>Let's Chant</i>	10	3	3	10	10	0	0	1
<i>Let's Play</i>	14	3	6	10	0	6	3	1
<i>Activity</i>	14	2	5	7	0	11	6	1
<i>Let's Sing</i>	2	0	0	0	2	0	0	0
計	57	11	25	28	13	18	11	7

語能力に関係しているものが最も多く、身体・運動能力、空間能力と続いている。空間能力を生かすタスクとして例を挙げると、絵を見ながら英語を聞いて形や色を選んだり、アルファベットの大文字を探したりする活動、ある事物の一部分の絵を見ながらいくつかの英単語を聞いて、その事物がどの英単語に該当するか答える活動、いくつかの事物のシルエットを見てそれぞれに該当する英単語を答える活動などがある。

## 2 『Hi, friends! 2』のタスクと8つの能力との関係

表2は、『Hi, friends! 2』のそれぞれのタスクが8つの能力のいずれかに関連していると判断した際の件数とその内訳を示したものである。『Hi, friends! 1』と同様、程度の差はあるものの、4つのタスクがほぼ8つの能力のどれかに関係している。中には、件数が0のものも散見されるが、同一タスクであってもその内容が異なれば当然件数に入る場合もある。件数としては、4つのタスクの中では言語能力に関係しているものが最多で、次いで身体・運動能力、自己理解・自己管理能力の順となっている。自己理解・自己管理能力を生かすタスクとしては、英語で自己紹介をしたり、自分の好きな国を簡単な英語を使って紹介したり、自分のなりたい職業を英語で宣言したりすることなどが例に挙げられる。なお、自然との共生能力に関するタスクとしては、件数は少ないものの、例えば、自然の事物の絵を見ながら英語でお話を聞いたり、英語劇の活動の中で動物の登場人物を入

表2. 『Hi, friends! 2』のタスクに関連した8つの能力の件数とその内訳

能力の種類 Task の種類	言語能力	論理的・ 数学的能 力	空間 能力	身体・ 運動能 力	音楽的 能力	人間関 係構築 能力	自己理 解・自 己管理 能力	自然と の共生 能力
巻頭・巻 末	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Let's Listen</i>	12	3	7	0	0	0	3	4
<i>Let's Chant</i>	8	2	0	8	8	2	2	2
<i>Let's Play</i>	13	2	6	5	0	3	4	5
<i>Activity</i>	12	2	5	9	0	11	10	2
計	46	10	19	23	9	17	20	14

れたりすることなどがレッスンの中に見られる。

上記の調査結果から、『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』のそれぞれのタスクにおいて、複合的能力理論の8つのタイプのいずれかの能力または複数の能力に関連した活動内容を取り扱っていることが明らかになった。なお、『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』共に巻頭・巻末において、8つの能力を全て網羅する内容を含んでいることもわかった。

#### IV 複合的能力理論と早期英語教育

子どもには、それぞれ個に適した学習方法があると考えられる。子どもたちの多様な能力を生かす複合的能力理論は、その点で子どものニーズに合った教育理論の一つであろう。複合的能力理論に沿った授業は、トピック学習あるいはテーマ学習という形態で、既に小学校、中学校、高校の教育現場においても実践事例がある。また、教科横断型の題材を含んだ内容重視の英語指導も複合的能力理論に基づいた授業として実践報告がある。

小学校の外国語活動の共通教材として活用されている『Hi, friends! 1』、『Hi, friends! 2』のタスクが複合的能力理論にも応用可能な教材であることが今回の調査では明らかになった。このことから、タスクの開発と指導法等によっては複合的能力理論に基づいた早期英語教育は可能であると思われる。

さらに、複合的能力理論に基づいた早期英語教育は、未就学児の子どもの場合にも応用可能性が予見されよう。例えば、『Hi, friends! 1』のタスクを、発達段階に応じて調整することによって、未就学児の子どものにも応用の可能性が見い出せるかもしれないが、実証はされていない。このことは、今後の課題としたい。

#### おわりに

本稿では、小学校の外国語活動で活用されている共通教材を調査対象とし、子どもの複合的能力理論の8つのタイプの能力をタスクの中で取り扱っているのか否か、取り扱っている場合でもどのようなタスクで取り扱っているのかを調査した結果を踏まえて、複合的能力理論に基づいた早期英語教育の可能性について検討した。

複合的能力理論を応用した指導法は、学習者の自主的な意欲を向上させるという点で学習者主体の指導法であると同時に、指導者にとっても自分の指導法を見直す契機を与えてくれる。日本では、複合的能力理論に基づいた早期英語教育の研究はまだ緒に就いたばかりであるが、今後もその教育的効果も含めて、研究を続けていくつもりである。



## 引用文献

林桂子. 2011. 「多重知能理論の観点から考える英語教育 第2回 英語学習における個人差を超えて」『英語教育』5月号 pp.51 東京：大修館.

## 参考文献

Berman, M. 1998. *A Multiple Intelligences Road to an ELT Classroom: Bancyfelin: Crown House*

Brewster, J., Ellis, G. & Girard. 2002. *The Primary English Teacher's Guide: London: Penguin*

Gardner, H. 1983. *Frames of Mind: The theory of Multiple Intelligences. New York: Basic Books*

Gardner, H. 1993. *Multiple intelligences: The theory of Multiple Intelligences. New York: Basic Books*

Paul, D. 2003. *Teaching English to children in Asia: Hong Kong Pearson Education*

Pinter, A. 2006. *Teaching Young Language Learners: UK Oxford University Press*

アレン玉井光江. 2010. 『小学校英語の教育法—理論と実践—』東京：大修館.

田辺あかり. 2014. 『外国語活動におけるマルチプルインテリジェンスの重要性』敬和学園大学卒業論文

外山節子他. 2010. 『英語の絵本活用マニュアル』東京：コスモピア

長谷川淳一. 2011. 「複合的能力理論による英語ノートの分析」日本教材学会『教材学研究』第22巻

林桂子. 2006. 「多重知能理論の観点から考える協同学習によるライティング指導」和歌山大学『英語英米文学研究』第14号.

## 参考資料

文部科学省. 2012. 『Hi, friends! 1』東京：東京書籍.

文部科学省. 2012. 『Hi, friends! 2』東京：東京書籍.